

抗血栓薬の管理と拮抗における最近の話題

updates in management and reversal of antithrombotic agents

*香取 信之¹

*NOBUYUKI KATORI¹

1. 慶應義塾大学医学部 麻酔学教室

1. Department of Anesthesiology, Keio University School of Medicine

抗血栓療法は凝固因子をターゲットとした抗凝固療法と血小板の活性化を阻害する抗血小板療法に大別できる。従来の抗凝固療法は、慢性期はワルファリン、急性期は調節しやすいヘパリン類といったわかりやすい使い分けであったが、抗血栓療法の領域では新薬やその拮抗薬の開発が急速に進んでいる。抗凝固薬の領域では作用機序がワルファリンとは全く異なる経口抗トロンビン薬や抗Xa薬（direct oral anticoagulants: DOACs）が急性期・慢性期の管理に用いられるようになり、その適応や薬理学的特徴、副作用、拮抗の方法など急性期医療にかかわる医師が知っておくべき情報は以前よりも複雑となってきた。抗血小板療法においても新規のP2Y₁₂阻害薬の治験が進んでおり、今後は多様化した抗血栓療法に対応する必要性が生じる。本コースでは抗血栓療法に関する最近の話題を概説する。